

R I 治療患者の苦痛に関する調査

— 病室環境に視点を置いて —

中病棟 6 階 (R I) : ○向山 靖子・宮沢 直子
佐々木武子
(北 2) : 藤原 昭子

1. はじめに

放射線治療の中で、密封小線源、非密封線源による治療は、患者自身が放射線源となるため、放射線管理区域内での制約された生活を強いられる。隔離された特殊環境下にある R I 病棟入室に対し「嫌だなあ」という思いの中には、放射線治療であるという他に、特殊な施設に入らなければならないという環境による苦痛が大きいと思われる。私たちは、平成 3 年度に「明るいイメージ作り」をテーマに療養環境を整えてきた。今回、患者の環境による苦痛の実態を知ることにより、患者の気持ちをより理解し、看護援助を展開させていきたいと考え、この研究に取り組んだ。

2. 研究目的

R I 病棟入室患者の環境からくる苦痛とは何かを知る。

3. 研究方法

- (1)対象・・・平成 4 年度に R I 病棟に入室した患者
- (2)調査期間・・・1992 年 4 月～1993 年 3 月
- (3)調査方法・・・アンケート調査法

4. 研究結果

- (1)¹³¹I カプセル内服患者・・・・・・・・・・ [A]
- (2)²²⁶R a 針及び¹⁹⁸A u グレイン刺入患者・・・ [B] とする
- (3)¹³⁷C s 管腔内照射患者・・・・・・・・・・ [C]

※アンケート結果 (表 1)

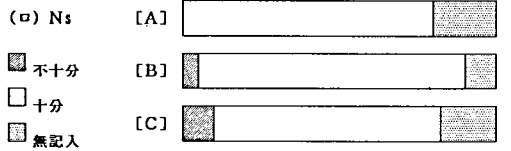
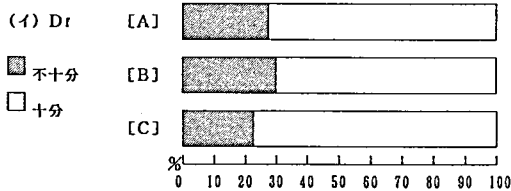
〈資料 1〉

[対象患者の背景]

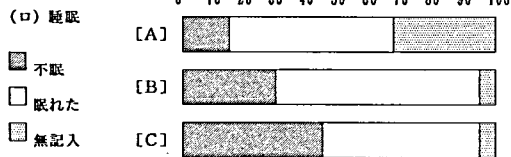
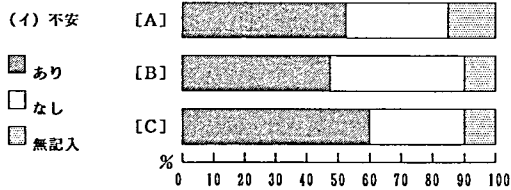
	疾患名	使用線種	平均年齢	平均在日数	特徴	人数
[A]	甲状腺 Ca バセドウ病	¹³¹ I カプセル	51.4 歳	4.66 日	精神的 不安定	21 名 (初回 9 名)
[B]	舌 Ca 他	²²⁶ R a 針 ¹⁹⁸ A u グレイン	67.8 歳	7.41 日	筆談必要	17 名
[C]	子宮 Ca	¹³⁷ C s 管	70.3 歳	17 時間	同一体位 保持	9 名 延 18 回

※アンケート結果
(表1)

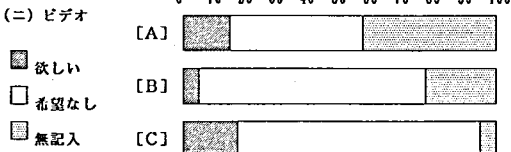
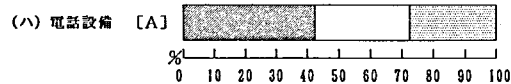
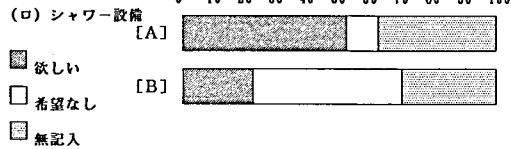
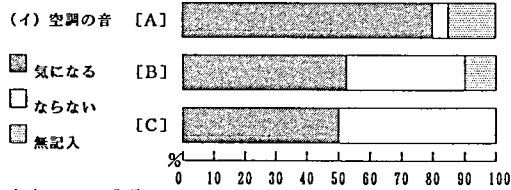
(1) オリエンテーション



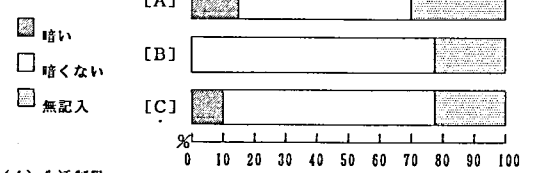
(2) 不安と睡眠



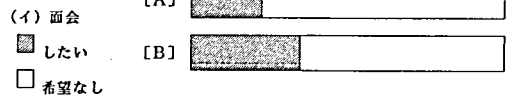
(3) 環境・設備面



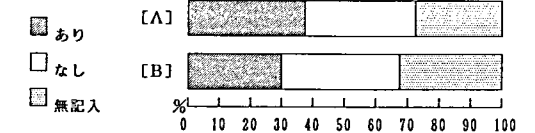
(ホ) 室内イメージ



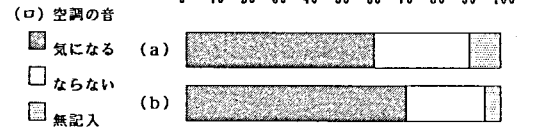
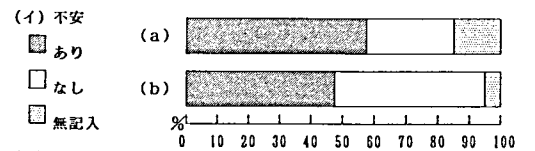
(4) 生活制限



(ロ) 退屈・他



(5) 初回 (a) と 2回目以後 (b) との比較 (全体)



5. 考 察

(1)オリエンテーションについて

RI病棟入室に対し、医師より十分説明を受け理解して入ってきているか、又看護婦の説明は分かりやすかったかを、まず知りたいと思った。

「医師の説明が不十分」と答えている患者は、[A] 28.6% [B] 29.4% [C] 22.2%であり多くの患者が理解して入室している。入室したときの看護婦の説明に対しては「分かりにくかった」と答えている患者は、[A] 0 [B] 5.9% [C] 11.1%であり、オリエンテーションに関してはまずまずと見てよいが、たとえ少数人数でも、納得しないまま入室している患者が居ることは問題である。

(2)不安と睡眠について

放射線治療に対して「不安があった」と答えた患者は、[A] 52.4% [B] 47.1% [C] 61.1%である。医師の説明で理解したつもりであっても、不安を拭いきれない患者が多いといえる。不安を完全に除去することは難しく、個人差も大きいと思われるので入室時のオリエンテーションの対応の中で汲み取り安心感を与えられる技術が必要である。

「眠れなかった」と答えている患者は、[C] で44.4%あり不安と共に[C]の患者に多い。[C]は婦人科の疾患であり、腔内に器具が入っていて圧迫されていること、体動も制限されること、ほとんどが夜間の治療であることなどから、不安を伴っての不眠であると考えられる。動いてもよい範囲をきちんと納得できるよう説明して、ただ硬くなって寝ていることのないよう援助が必要である。

(3)環境・設備について

5項目で問題になるのが「空調音」である。「気になった」と答えている患者が[A] 81.1% [B] 52.9% [C] 50.0%と、トップに上がっている。

特に[A]で高いのは対象が比較的若いこと、甲状腺疾患でホルモンバランスが崩れていること、経過が長いなど、精神的に不安定であることも関係していると思われる。日頃の患者の訴えを見ても(資料2)空調音に対するものが多く、終日ザーザーと鳴っている音は、夜中又は朝方目覚めた時には、大雨が降っているように感じたり、頭が押え付けられるようだ、工事現場に寝ているようだと言った患者も居た。

次に「シャワーがあびたかった」[A] 52.4%「電話があれば良いと思った」[A] 42.9%が設備面での希望である。電話に関しては、看護婦の働きかけにより8月23日各部屋に設置された。

(4)生活制限について

隔離された生活での苦痛は、私たちが思っていた程には高くなく、入室に際してしっかり説明されていて、耐えられない苦痛ではないと思われる。

それでも[A]では「外に出られないこと」「退屈」で38.1% [B]では「面会できないこと」35.3%ある。[A]に対しては、気分転換への援助が必要と考えられ[B]の場合は、在室日数が一週間を越えることが多いので、洗濯物への配慮と家族が見えた時には病室から顔を出して、

遠くから見るだけでも安心すると思われるので、その時々に応じた機転も必要である。

(5)初回と2回目以降との比較

初めてR I病棟で治療を受けた患者と2回目、3回目と経験のある患者との間に違いがあるかどうかを「不安」と「空調音」で比較してみた。「不安」は初回に高く「空調音」は2回目以後の方が高くなっている。「空調音」に対しては経験により慣れてくるという性質のものではないことがわかる。

6. まとめ

R I病棟での患者の苦痛は「不安」と「空調音」であった。空調音を測定してみると、治療病室では昼間、夜間共に59 dB(A)であった。病院の騒音許容値、昼間45 dB(A)以下、夜間35 dB(A)以下をはるかに越えている。患者にとって療養環境は大切であり回復効果にも関わってくる。患者は静かで不安なく休める環境を望んでいる。看護婦は十分な言葉がけによって患者の気持ちや和らげ、安心感を与えられる対応をして行かなくてはならない。R I病棟の空調は、病棟内を一定の温度に保つ目的と、非密封線源の汚染空気を外に出す役目をしている。今の時点では音を小さくすることも止めることもできない。私たちができる援助方法は、空調音が不安を増強させることのないよう空調に対する説明もオリエンテーション内に含め、理解して頂くことも大切であると感じている。

7. 参考文献

- 1) 渡辺 孝子他：密封小線源、非密封線源治療病室の看護管理，看護技術，502：27-31,1989.
- 2) 宮崎 和子他：入院生活に伴う患者のリスクを考える，看護実践の科学，15(6)：19-31,1990.
- 3) 川島みどり：看護婦の目から見た患者の療養環境，看護実践の科学，17(10)：19-28,1992.
- 4) 近藤芙美子：不安を呼び起こすもの，看護実践の科学，12(8)：18-21,1987.
- 5) 丸山 直子他：ICUの環境を考える—騒音調査から—〈看護研究収録〉，信州大学医学部附属病院看護部，1988,P184-187
- 6) ナイチンゲール・F（尾田葉子訳）：看護覚え書き，第3版，日本看護教会出版会，1988.

〈資料2〉

[患者の訴え]

(1)アンケート用紙の余白に記入

[A]

- ・一日が長い
- ・退院時、清拭～着換だけでシャワーを浴びないのは不安である
- ・退屈です
- ・部屋の音が気になります
- ・気を紛らわすためにも、電話のできるような設備が欲しい
- ・窓をもっと大きくして、外の景色が見えるようにして欲しい
- ・空調の音が気になり眠れなかった
- ・入院前のオリエンテーションが十分でなかった
- ・空調の音が大変気になる。頭が押え付けられるように痛い
- ・もう少し窓が大きければ、外が見られて少しは気分も違うと思う
- ・急に寒くなったり暑くなったりした

[B]

- ・換気の音は、今の世に皆さん承知のようだけど、どうしてどうにもならないのでしょうか
- ・夜、雨が降っているような音がして眠りにくかった
- ・退屈で仕方ない。少し散歩ができれば良いと思う
- ・初めての治療なので、不安がありました

(2)看護記録より

[A]

- ・夜間不眠がち
- ・空調の音が気になり眠れなかった
- ・ここに入っただけで、気持ちが精一杯、放射線と聞いただけで・・・とオロオロした感じあり
- ・3時すぎってから、やっと眠れた
- ・12時頃迄眠れなかった
- ・夕方になると、家に帰りたくなった
- ・部屋、乾燥感あり
- ・空調の音を、これは何ですか？と聞く 夜間気になった
- ・この音はずっと続くのでしょうか？と空調音を気にする
- ・1時～3時頃、眠れなかった 空調の音気になる
- ・空調の音を、雨が降ってきたみたいですが・・・と気にする
- ・夜、空調の音を大雨が降っているように感じた
- ・むし暑い感じで良眠できなかった
- ・静かな所から来たから、空調の音が気になる
- ・退屈で困ってしまいます
- ・工事現場の中に寝ているようだ・・・と言う

[B]

- ・夜、眠れなくて苦痛だ・・・と書く
- ・退屈だねえ
- ・眠りたい・・・と書く

[C]

- ・空調の音が雨が降っているような気になる
- ・音がうるさく、よく眠れなかった
- ・空調の音で、あまり良く眠れなかった
- ・眠れなかった 疲れてしまった
- ・眠剤内服したが空調の音気になり眠れず
- ・朝、空調の音気にする 水の音ですか？ 静かな所で半日位寝ていたい
- ・不眠 疲れた 辛い治療だった

〈資料3〉

アンケート用紙 ー環境面のみ抜粋ー

※治療御苦勞様でした。こちらで何か考慮することができればと思いますので、アンケートにご協力下さい。下の項目で、あてはまる番号を○で囲んで下さい。

(1)治療について

1. 医師より充分説明を受け理解できた。
2. 説明は受けただけれど、良くわからなかった。
3. 簡単な説明だった。
4. 説明は受けなかった。
5. 看護婦の説明は充分理解できた。
6. 看護婦の説明はわかりにくかった。

(2)放射線治療に対して

1. 不安があった。
2. 不安はなかった。
3. 夜は良く眠れた。
4. 夜は眠れた方である。
5. 夜はほとんど眠れなかった。

(3)病室環境について

1. 空調の音が気になった。
2. 空調の音は気にならなかった。
3. 部屋は暗い感じだった。
4. 部屋は暗いと感じなかった。
5. 部屋が寒かった。
6. 部屋が暑かった。

7. 部屋の温度はちょうど良かった。
8. 一人部屋でさみしかった。
9. 一人部屋で気楽に過ごせた。

(4)病棟の設備について

1. 電話があれば良いと思った。
2. 電話はいらないと思った。
3. ビデオが見れば良いと思った。
4. ビデオは特に必要だと思わなかった。
5. シャワーがあびたかった。
6. シャワーは必要ないと思った。

(5)生活制限について

1. 外へ出られない事がいやだった。
2. 外へ出られない事は苦痛に感じなかった。
3. 退屈してしまった。
4. 退屈とは感じなかった。
5. 面会できないのが不自由だった。

※アンケートにご協力いただきありがとうございました。上の項目以外で感じたことがありましたら、何でもお書き下さい。